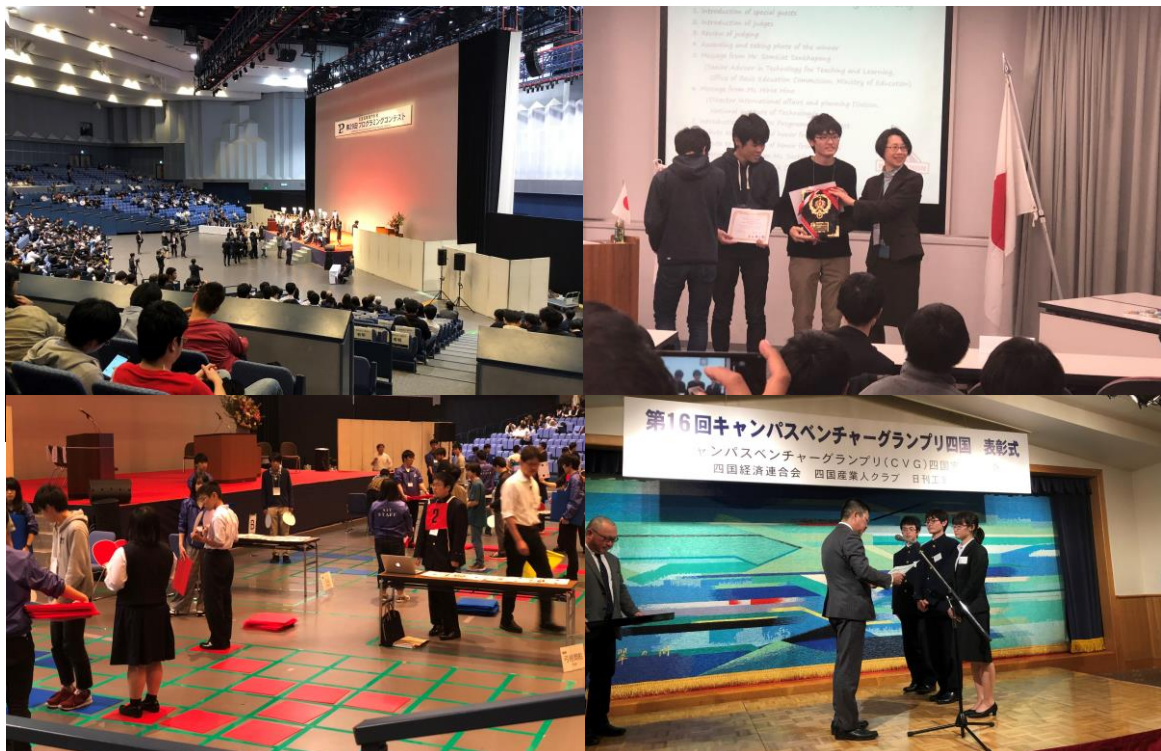


ひとづくり 第16号

弓削商船高等専門学校 情報工学科 広報誌 2019(平成31)年3月発行



敗北を超えて学ぶこと

10月27,28日アスティ徳島で行われた第29回高専プログラミングコンテスト、本校は課題・自由部門で予選通過ができず、競技部門のみという結果になりました。第8回から21年間続いていた課題・自由部門の連続出場の記録が途絶えてしまったこととなります。これは本校の優勝回数やダブル優勝にも勝る記録でした。

それでもプロコン本選に参加した学生たちは、いつもよりも規模が大きい会場、平井IT担当大臣、県知事、理事長などの来賓の前で、華々しい舞台に立てなかった悔しさを次のステップにすべく、競技に取り組み、積極的に他チームの作品の情報収集を行いました。

彼らは歩みを止めません。タイ日ゲーミングハッカソン国際大会3位(岸田₁₂、中神₁₂、森上₁₂)、キャンパスベンチャーグランプリ四国大会特別賞(小山₁₄他)などの成果を上げています。

第30回大会は宮崎県都城市で行われ、優秀チームはハノイで行われる国際大会に招待されます。全国から集まる高専生と対等以上に競い合う弓削商船、今後も目を離せません。(長尾和彦)

創造性実験の発表会を実施



1月30日、情報工学科4年生の「創造性実験発表会」が開催されました。本発表会では、2～4人のグループに分かれ、学生の自由な発想で考案された作品について発表を行いました。作品づくりは、限られた時間と予算の中で、企画書の作成や部品の発注を含む作業をスケジュール管理をしながら進めていきます。本年度は、Yahooが企画・運営するHack Uプロジェクトの一環で、3名のYahooのエンジニアが発表会を聴講され、様々な視点で学生たちに有益な助言をいただきました。参加した学生は、半年近くかけた作品のでき栄えを互いに評価し合い、“ものづくりの楽しさ”を味わう貴重な機会となりました。

総合文化祭で情報工学科学生が受賞



12月15日～16日、香川県三豊市内で開催された第40回四国地区高等専門学校総合文化祭に、本校より教職員および学生が多数参加しました。絵画部門で情報工学科5年の新川 陽葉さんの作品が優秀賞を受賞しました。また、書道部門で情報工学科4年の佐藤 花菜さんと箭内 楓さん、絵画部門で情報工学科1年の原 楓子さんと和田 彩花さんの作品が佳作を受賞しました。

sakura.io 体験ハンズオンを実施



11月13日(火)、さくらインターネット株式会社を招いて、「sakura.io 体験ハンズオン」を実施しました。情報工学科3～5年生、電子機械工学科の5年生や専攻科生の希望者39名と教員4名が参加しました。

ほとんどの参加者は、IoT(Internet of Things)とよく耳にするが、実際に触れたことがない、クラウドは利用したことがあるが自らが設定するのは初めてという学生でした。約3時間のハンズオンを体験した学生は、組み込みやWebに関する知識を既に持っており、クラウドを利用したIoTの仕組みを十分に理解でき、大変満足していました。本取組みは、KOSEN(高専)4.0イニシアティブ平成30年度事業として「離島工学に基づく防災・減災に精通したIoT技術者育成プログラム」の一環として実施した事業です。

低学年学生を対象とした5年生によるの就職・進学体験談



12月6日のHRにおいて、情報工学科1～3年生を対象とした「5年生による就職・進学体験談」を実施しました。この取り組みは、低学年向けのキャリア教育の一環として今年度はじめて開催されました。情報工学科5年生6名が、就職活動中に学んだことや失敗談、進学する際の心得、留学での体験談などについて講演しました。低学年学生は、5年生の話を興味深くよく聞いていた様子でした。

学生の海外体験談「語学留学とワーキングホリデーを経験して」



1年間の休学期間を利用して海外へ渡航した学生の体験談を掲載します。

私は4年次修了時に1年間休学し、3か月間をフィリピンの語学学校で、次の8か月間をオーストラリアでワーキングホリデーで生活しました。きっかけは、私が海外生活に興味をもっていることを知っていた同級生から、語学留学の相談をされた事でした。結局、その彼も一年遅れで語学留学を実現しました。保護者を説得するために、海外への興味、将来的な英語の必要性

を伝えると、意外にもあっさり許可してくれました。当初は、国の教育ローンを借りることを想定していましたが、保護者が将来のために積み立てていた200万円を借してくれました。

上級生の留学経験者から話を聞き、フィリピンの物価が安いこと、語学学校の教育システムがマンツーマンレッスンであることを聞き選びました。フィリピンでの学費は8か月間で約140万円でした。留学は思っていたより華やかな生活ではなく、最初は思ったように英語で表現できないストレスから帰国願望や会話を避けたい気持ちさえもち始めました。しかし、このままではいけないと自分を鼓舞した結果、1か月が過ぎた頃には、基本的な会話であればできるようになり、その達成感がその後の自信になりました。フィリピンでは、平日は学校、週末は友人と観光など遊んで過ごしました。学校には、日本人、台湾人、ロシア人、韓国人などがいて、韓国人女性と交際するようになりました。3か月がたった頃、彼女に触発され、オーストラリアへ移ることにしました。学費のキャンセル料など問題もあったけど、後悔しなくなかったので迷いはなかったです。

オーストラリアでは、最初の2か月間だけ語学学校へ通いました。語学学校はグループレッスンで、中国人、韓国人、南米人、ヨーロッパ人、東南アジア人たちと授業を受けました。放課後にはクラスメイトと図書館で勉強したり、友達と会ったり、アパート内のジムで筋トレをしたりして過ごしました。途中からは、知人の紹介でホテル（公共エリアのクリーナーやハウスアテンダント）で働きました。同僚たちとの会話では、ビジネス用語を学ぶ事ができました。最後の2か月間では、観光など旅行を満喫しました。オーストラリアでの滞在費は、アルバイトをすることで約45万円に抑えることができました。

帰国後、すぐに就職活動に取り掛かりました。将来、海外勤務のできる企業を探し、建設機械業界のメーカーの内定を頂くことができました。

海外での生活では、行動力や度胸が試されました。英語力の向上だけでなく、それ以上に人脈、コミュニケーション、行動力の重要さを痛感させられました。これまで言われ続けてきた、「気付き・考え・実行する」の精神を、初めて理解できたような気がします。日本が異文化だと感じさせられる事もしばしばで、海外は日本とは全く違う価値観や文化をもっています。そのような事を知ることができ、海外に対する視野を広げられた事は、人生において貴重な経験だったと思います。今後もこの経験を活かして、社会で活躍したいです。

(情報工学科5年 櫻井 吟)

卒業研究発表会を実施

1月29日、情報工学科5年生が卒業研究の成果を発表しました。研究テーマには地域問題の解決に向けた取り組みや防災教育に関する研究など様々でした。また聞き手には5年生と教員のほか、3年生や4年生、専攻科生の姿も見られ、興味津々という様子でした。

本校の学生による中学校への出前授業（ロボットプログラミング）を実施



本校では、近隣の中学校を対象にロボットプログラミングの出前授業を実施しています。本年度は、専攻科の学生が授業を考え、情報工学科5年生の学生がそれをサポートする形で弓削中学校で授業を行いました。授業では、プログラミングの基本やロボット機能や操作方法の簡単な説明から始め、最後は「自動ブレーキシステム」を作るなどの様々な課題を中学生と本校の学生が協力しながら挑戦しました。

第6回情報工学科学生表彰を実施



情報工学科では、1～4年生を対象に、顕著な成果をあげた学生を表彰する制度を設けて表彰しています。この賞は、

- ・成績や資格取得などの学業
- ・クラブ、学生会、ボランティア活動、異文化交流などの課外活動
- ・人格、授業や学校行事（特別活動、SHR、補習など）に取り組む姿勢

を総合的に評価し、他の学生の模範となる者に授与されます。今年度

の受賞は、次の通りです。

最優秀学生賞

中神 悠太（2年）：キャンパスベンチャーグランプリ 新聞社賞／タイ日 Unity ゲームハッカソン 3位／高専プロコン競技部門参加（ソルバ作成）／セキリュティミニキャンプ in 岡山／白砂寮献立アプリメジャーアップデート／基本情報処理技術者／P 検準 2 級

優秀学生賞

原 楓子（1年）：成績優秀／総合文化祭 美術部門佳作／P 検 3 級／前期・後期級長

山田 健太郎（2年）：成績優秀／英検準 2 級／P 検準 2 級

旗手 菜々子（3年）：成績優秀

宮地 香樹（3年）：成績優秀

山本 妙（4年）：成績優秀



国立弓削商船高等専門学校

〒794-2593 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削 1000 番地

<http://www.yuge.ac.jp/> 0897-77-4620

題字：馬越 唯（平成 23 年度情報工学科卒業生）

コンピュータ教育を通して、社会に役立つ「ひとづくり」を目指します。